

①利用者・関係者アンケート調査の実施

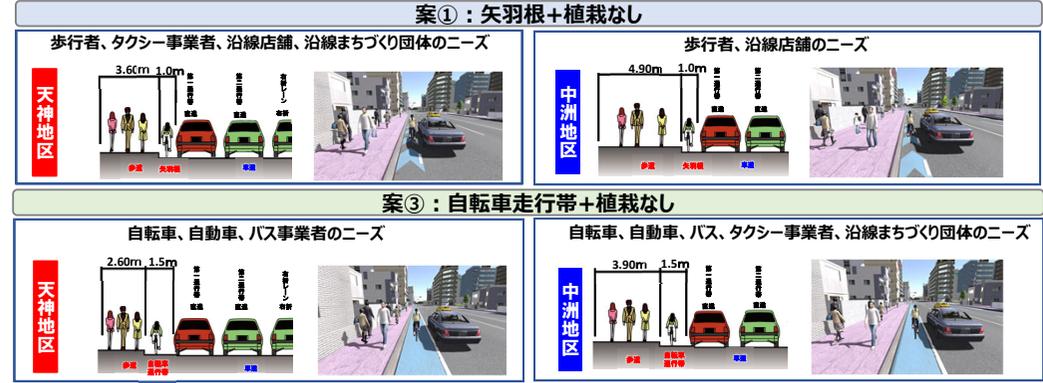
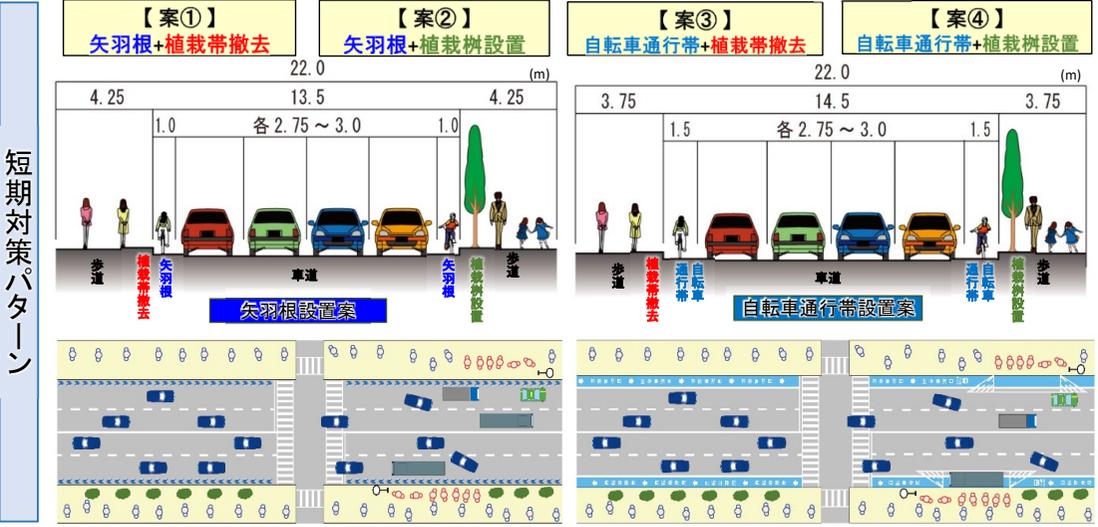
・第2回検討会までに、地域ニーズを踏まえて短期対策4パターンを抽出した。
 ・今回この4パターンに対し、道路利用者や交通事業者へのアンケート調査を実施し、短期対策の方向性を取りまとめた。



③アンケート調査結果

	天神地区				中洲地区			
	案① 矢羽根 +植栽なし	案② 矢羽根 +植栽あり	案③ 自転車通行帯 +植栽なし	案④ 自転車通行帯 +植栽あり	案① 矢羽根 +植栽なし	案② 矢羽根 +植栽あり	案③ 自転車通行帯 +植栽なし	案④ 自転車通行帯 +植栽あり
歩行者 (N=477)	61%	10%	23%	6%	39%	20%	23%	18%
自転車 (N=509)	40%	9%	42%	8%	29%	8%	40%	22%
自動車 (N=400)	29%	11%	42%	19%	22%	11%	43%	25%
バス事業者 (N=1)	-	-	○	-	-	-	○	-
タクシー事業者 (N=54)	37%	28%	26%	9%	15%	7%	61%	17%
沿線店舗 (N=45)	60%	16%	20%	4%	45%	18%	18%	18%
沿線まちづくり 団体(N=7)	71%	0%	29%	0%	29%	29%	43%	0%

※歩行者は昼間と夜間、自転車はWEB調査と路上聞き取り調査の合計値 ※表示桁数の関係で100%としない場合がある



短期対策パターン

④短期的対策の選定

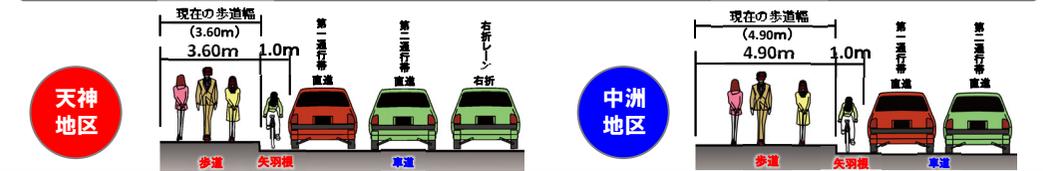
沿線開発に 合わせた対応	案①: 矢羽根+植栽なし		案③: 自転車通行帯+植栽なし	
	歩行空間の確保	◎	・天神地区は現在の歩行空間を確保 ・中洲地区は歩行空間が拡大	(×)
事業期間	◎	短期	▲	長期化
地下鉄七隈線開業 に合わせた整備	◎	早期対応が可能	▲	対応困難
安全性	○	天神地区は現状と同じ 中洲地区は現状より向上	◎	全区間向上
事業費	○	約0.4億円	▲	約1.6億円
	○	・車道舗装、側溝の整備が必要	▲	・車道舗装、側溝の整備、 及び地上機の移設が発生

②アンケート調査の回収状況

調査対象	調査方法	昼間回収数		夜間回収	
		天神地区	中洲地区	天神地区	中洲地区
歩行者	路上聞き取り調査	418票	408票	59票	55票
自転車	路上聞き取り調査	109票	110票	-	-
	WEB調査	400票	400票	-	-
歩行者・自転車合計		1,845票		114票	
自動車	WEB調査	400票	400票	-	-
自動車合計		800票		-	-

※アンケート調査日時: 路上聞き取り調査【令和2年12月21日~28日、令和3年1月13日】 WEB調査【令和3年1月26日~2月2日】

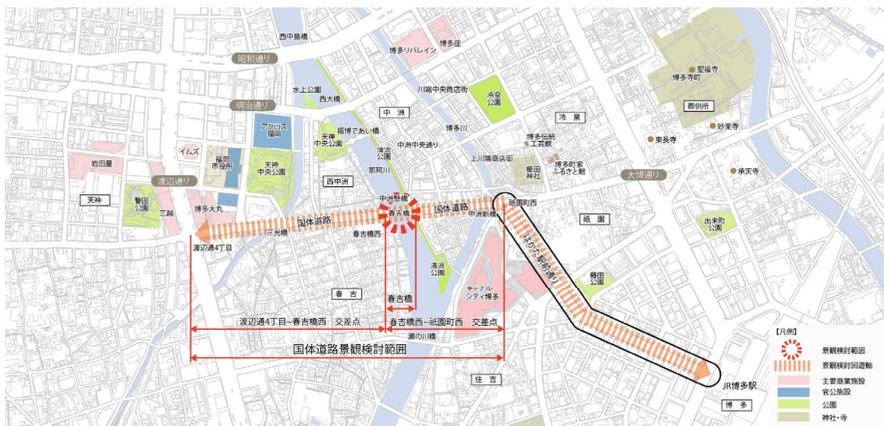
選定結果: 矢羽根+植栽なし



・地下鉄中間駅開業等にもなる歩行者増加に対応するため、歩道幅員を維持しつつ、歩行者と自転車の分離をはかる必要がある。
 ・このため、自転車通行空間は連続性を考慮して矢羽根を延伸し、歩道空間は植栽帯を撤去する暫定的な処置を提案。
 ・なお、ニーズの高かった「自転車通行帯」については、天神と博多を結び回遊性を高めるまちづくりを目標とすることから、はかた駅前通りとの連続性を踏まえ、長期対策検討に併せて引き続き検討を行う。

① 国体道路の景観検討

- 国体道路の景観検討は、短期対策範囲である**はかた駅前通りの結節点となる「祇園町西交差点～渡辺通4丁目」とし**、春吉橋の景観検討を進めるためにも、今後の**国体道路の目指すべき景観の方向性を設定**。



- **国体道路沿線のまちづくり**: 人が中心のまちの回遊性を高める取り組みが行われている。
- **沿道の現況特性**: はかた駅前通り、渡辺通りなど統一感のある沿道空間が国体道路と接続している。
- **国体道路の課題の抽出**: 街路の連続性がなく、建造物の統一感や滞留するスペースが少ない。夜の景観として照明がまばらであり歩行空間で明るさ確保や誘導の工夫がない。

【国体道路の目指すべき景観の方向性】

天神と博多を結ぶ目抜き通りとして、回遊性の向上、賑わい創出、屋外での憩いの場の創出により、人が楽しみながら、歩きやすく、活動できる場の提供を周辺空間が一体となって転換していくことを目指す。

②-1 国体道路(春吉橋)の景観検討

春吉橋は、国体道路の一部として、**周辺環境**との調和を図りながら、本橋の架替え工事に合わせてより具体的に**景観の検討**を進める。

- **景観検討対象箇所の抽出**: 歩道舗装、親柱、橋梁付属物(高欄、防護柵、照明など)を抽出
- **景観検討の留意点**: 国体道路、清流公園、水辺空間など周辺空間とのつながりや調和が感じられ、様々な利用特性の応じた空間演出と全体的なまとまりの両立。
- **個別の方針の設定**: 目指すべき景観の方向性や留意点を踏まえ個別に方針を設定

【春吉橋景観デザインコンセプト】

ひと・まちを結び、賑わいを創出する「新たな春吉橋」

- 魅力ある街と街をつなぐ回遊拠点として、周辺と調和した落ち着いた品格のある空間を演出するとともに、周辺地域の魅力をつなげるデザインを目指します。
- 賑わい空間は、水辺の解放感や賑わいの楽しさを演出することに加え、「憩い・くつろぎ」と「アクティビティ」の二つの顔を成り立たせる空間デザインを目指します。
- 多様な人々が賑わう空間の創出として個性の演出とともに全体のバランスのとれた統一感のある景観形成を目指します。

②-2 国体道路(春吉橋)景観デザイン検討(案)

景観検討対象箇所について景観検討の留意点を踏まえ、個別の方針を設定し、検討の方向性を整理

景観構成要素	検討イメージ			検討の方向性(案)
	検討案① 横棧タイプ	検討案② 縦棧タイプ	検討案③ 多柵タイプ	
高欄				<ul style="list-style-type: none"> ● 高欄は周辺と調和した落ち着いた品格のある空間を目指し、鑄鉄製とし、ダークグレーを基本として検討する。 ● 橋梁上での統一性や連続性が感じられる形態や高欄への足掛け防止も踏まえ、多柵型での検討を行っていく。 ● 高欄を構成するトップレールは手になじみやすい形状とする。
横断防護柵				<ul style="list-style-type: none"> ● はかた駅前通りとのつながりに配慮し横棧タイプの形状とする。 ● 圧迫感の低減として支柱を細くすることにより向上させる。
転落防止柵				<ul style="list-style-type: none"> ● 清流公園の防護柵や橋上高欄との調和を図り、つながりを確保。 ● 橋梁と連続する部分は、縦棧型のシンプルな形状としても併せて検討する。
地覆				<ul style="list-style-type: none"> ● 橋梁側面の圧迫感を抑えるため、スレンダーに見える形状を検討。 ● 地覆と共に、橋梁側面の配管類など見せない工夫や移動を検討。 ● 橋脚は上部との連続性の確保を検討
親柱				<ul style="list-style-type: none"> ● 高欄の素材と同一として鑄鉄タイプで検討。 ● 高欄内部の有効利用を検討(電源設備など) ● 親柱は、シンプルな形状としながらも、橋梁のアクセントとして、また顔としてのデザインを検討。
道路照明				<ul style="list-style-type: none"> ● 照明ポールと灯具はシンプルな形状とする。 ● 橋上の構造物と形状・色調・質感を統一。 ● 夜の景観として明るすぎない温かみのある光とする。 ● 照明のベースプレートやボルト類、ポールの飛び出しなどにも配慮。
景観照明				<ul style="list-style-type: none"> ● 中洲の夜景は「光の点」と中洲の特性として「看板照明」等で構成されており、「連続した光の帯」が周辺にない。 ● 外から橋の上の賑わいの様子が、照明で確認でき、高欄自体もきれいに見え、橋上の賑わいを浮かび上がらせるというコンセプトで検討。
歩道舗装				<ul style="list-style-type: none"> ● 橋梁構造物との調和を図り、グレー系の落ち着いた舗装で検討。 ● 橋梁全体として国体道路、清流公園との調和を目指す。 ● 点字ブロックは、周辺の通りからの接続も考慮し、薄い黄色とする。

1. 第2回検討会後の調査内容

・賑わい空間の方向性の深度化にあたり、各種ヒアリングを実施

事業対象地周辺のまちづくり団体等	民間事業者等
<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナ流行を踏まえて、賑わい空間のあり方を再確認 	<ul style="list-style-type: none"> 賑わい空間活用アイデアについて、公募型サウンディング市場調査

2. 事業対象地周辺のまちづくり団体等へのヒアリング

① 調査概要

概要	内容
調査目的	・新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、集客イベントや春吉橋賑わい空間に対するイメージ、考え方などの変容を確認することを目的として、春吉橋周辺のまちづくり団体等にヒアリング調査を実施。
調査対象	・春吉橋周辺の5団体
調査方法	・ヒアリングシートを配布し、対面によるヒアリングを実施。
調査日程	・令和2年10月13日(火)、15日(木)に実施。

② 調査結果

内容	意見
1. イベント等の開催状況	<ul style="list-style-type: none"> 基本的にはイベントは全て中止 音楽イベントをオンラインで実施するなど、一部イベントは実施方法を工夫して実施
2. イベント等の今後の開催見込み(想定)	<ul style="list-style-type: none"> 規模縮小や感染対策を実施するなどして開催予定
3. コロナ禍を踏まえ、「賑わい」「集まり」に対する考え方の変化	<ul style="list-style-type: none"> 基本的には変化あり
4. コロナ禍を踏まえ、今後のイベント等の賑わいについて期待すること	<ul style="list-style-type: none"> イベントによる賑わいと柔軟性のある感染対策の両立 日常的に市民が活用できる恒常的な公共空間の使い方
5. コロナ禍を踏まえ、賑わい空間に対するイメージや価値観の変化	<ul style="list-style-type: none"> 変化なし
6. 賑わい空間に期待すること(求められるもの)	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の飲食店との共存共栄 周辺地区との連携 橋詰へのトイレ設置 イベント時も人通りがある流動性の確保 など
7. コロナ禍後の賑わい空間について、期待すること	<ul style="list-style-type: none"> インバウンド・県外客を惹きつけ、人を寄せるイベント(飲食系)

結果

周辺まちづくり団体等の主な意見

- ・ コロナ禍においても、賑わい空間に対するイメージや価値観は変化なし
- ・ イベント時だけでなく、日常的に市民も活用する、恒常的な公共空間
- ・ 既存の周辺飲食店等との共存・共栄が必要

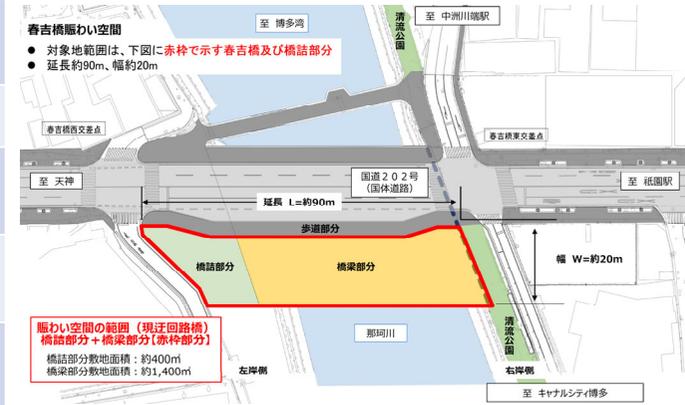
3. 民間事業者等を対象としたサウンディング型市場調査

① 調査概要

概要	内容
調査目的	・賑わい空間に関する導入機能・活用方法に関する民間意見・アイデア等の把握を目的として、公募型サウンディング調査を実施。
調査対象	・民間事業者、団体、大学含む研究機関等が対象。
調査方法	<ul style="list-style-type: none"> 福岡国道事務所HPに実施要領等を公表し、全国から広く意見・アイデアを募集。 個別対話はオンラインで実施。
調査日程	個別対話 令和3年3月29日(月)～4月13(火)

② 意見・提案を求めた範囲

・対象地は、春吉橋賑わい空間(橋詰+橋梁)に加え、隣接する公共空間である国体道路、清流公園との一体的な活用についても提案可能とした。



春吉橋賑わい空間に隣接する公共空間(国体道路、清流公園)



③ 調査結果

・全国から計13社・団体から意見・提案があった。

設問	意見・提案の概要
1. 提案コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> 人々が集い、文化が交流する 福岡・博多の新しい中心地 移動販売車による可変型商店街とニューノーマル屋台街 柔軟性・冗長性を備えた空間 など
2. 導入機能	<ul style="list-style-type: none"> 仮設の飲食スペース+橋上のオープンスペース キッチンカー等の様々な移動コンテンツ イルミネーション、プロジェクションマッピング等のライティングイベント 公衆トイレの整備 など
3. 事業対象範囲	<ul style="list-style-type: none"> 賑わい空間全体(橋詰+橋梁)という意見が半数以上 隣接公共空間については、清流公園との一体的な活用の意見が半数以上ある一方、国体道路歩道活用の意見もあり
4. 実施可能な事業内容	<ul style="list-style-type: none"> 計画から運営まで関与できるという意見と、部分的な関与であれば可能という意見あり 条件として、「事業として損失を負わないこと」、「電源・給排水等のインフラ等は公共側での整備を希望」する意見あり
5. 参加体制	<ul style="list-style-type: none"> 地元企業との共同体を組成しての参加や、産学官との連携など、様々
6. 空間の位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 物販・イベント等の柔軟性の重視が過半数 その他、「長期的な事業期間(最低10年)」、「物販・イベント以外安定収入(広告など)」、「周辺公共空間と一体的な活用」を重視
7. 関心度合い	<ul style="list-style-type: none"> 参加意向として、「積極的に参加することを検討」が半数以上
8. その他意見	<ul style="list-style-type: none"> 地域の理解を得る取り組み/コロナ禍を踏まえた、占用料等の弾力的な運用/事業スケジュールの事前開示、などの要望あり

結果

民間事業者等の主な意見

- ・ 仮設物×イベントの組み合わせなど、柔軟性のある使い方の提案
- ・ イベント等以外の安定的な収入源があることを重視
- ・ 清流公園、国体道路歩道空間といった、周辺公共空間との一体活用の意向

4. 調査結果を踏まえた賑わい空間の方向性(案)

運用面での持続性・柔軟性	ポストコロナでの「賑わい空間」のあり方として、持続性・柔軟性のある空間
周辺との一体性・連続性	国体道路・清流公園との一体性・連続性が感じられるような、エリア全体の回遊を促す空間
地域との共存・共栄	周辺地域の飲食施設等と共存・共栄し、活力ある都市の魅力を、ともに高め合う空間